

平成 16 年度 都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」受賞地区概要

恵み野地区

恵庭市北部に位置する新興住宅街である当地区は、計画当初より、単なるベッドタウンにはしないことを目標にしており、地区内には水と緑の連続した公園が縦断し、主要な歩道には、花壇の配備も可能な 6 m 以上の幅広な歩道を配置するなどの工夫がされ、快適性と利便性が追求されている。

平成 3 年に女性市民が始めた花による美化運動が、徐々に住民それぞれの庭を中心に広がり、花のまちづくり運動として定着し、「花探偵団」と称した地区内家庭の「モデルガーデン」としての表彰や、自由参加で道路の両側に花を植える「花の千人植え」などの取組みに発展している。

道路からみた庭の美しさも考えながら、個々の住民が創意工夫して整備した結果の風景であるため、地区全体が独特のうるおいに満ちた景観となっている。現在は、道内外からの来訪者も多く、恵庭市の重要な観光資源となりつつある。



当地区は、ＪＲ恵み野駅（写真中央左）周辺に位置し、団地の中央に帯状に恵み野中央公園が配置されている。



都市計画道路（南島松 1 号通）の計画幅員 16 m より更に広く、歩道と花壇用地 8 m を確保した箇所。沿線の恵み野商店会や「花の千人植え」で管理している。



コンテスト実行委員による「花探偵団」の審査風景。



「花の千人植え」風景。ＪＲ恵み野駅から約 3 km、道路の両側を「花ロード」と名付け、自由参加で花を植える。

南町地区

山中町は、東に鶴仙溪^{かくせんけい}を有する大聖寺川^{だいしょうじがわ}、西に医王寺^{いおうじ}を有する水無山^{みずなしやま}を控え、南北に開かれた形をしている。その中で当地区は中心市街地にあり、目抜き通りの主要地方道山中伊切線^{いぎり}が南北に走っている。しかし、道幅が狭く、自動車の交差が困難であるだけでなく、歩行者にとっても非常に危険であったため、拡幅の計画が持ち上がった。その過程で、地元協議会が参加して景観形成基準が策定され、これに基づいた街並み形成を行うための審査や誘導が行われた。

現在では、住民による建築物の建て替えが進み、温泉街らしさを目指した景観が形成されている。また、歩道が出来たことにより、そぞろ歩きを楽しめるようになり、商店街では地元客と観光客の交流のための様々な取り組みを行い、賑わいの創出を図っている。



拡幅により周囲の山々を望めるようになり、まちなかの植栽と調和している。(南から北方向)



改築後も石積みを施し、景観に配慮してある。



曳き家により町屋を再生し、通りの拠点施設として活用している。



通り沿いに設けられたゴミステーション。

うだつの上がる町並み地区

当地区は、美濃市の中心市街地を形成し、江戸時代初期に行われた町割を残した、うだつの上がる町並みが形成されている。また、特産の和紙を使った花みこし、流し仁輪^{にわか}加など、歴史と伝統を引き継いでいる。

平成 11 年には重要伝統的建造物群保存地区に選定され、これを機に、住民の参画により「総合地区整備計画」「景観マニュアル」が策定され、景観の保全と形成が行われてきた。さらに、架空線が撤去されたことで空の広がり^と山並みの緑の眺望が確保され、まちなみのファサードと調和して、風格のあるまちなみの景観が生み出された。

また、市民協働による「美濃和紙あかりアート展」など、多彩なイベントも開催し、町並みに賑わいが再生しつつある。



一番町通り、建物のファサードが整然とし、良好な景観形成がなされている。



景観形成マニュアルに基づいた、家屋の修景例。格子の建具、真壁などで修景がされている。



美濃・紙の芸術村のワークショップの様子。子供たちを中心に交流をはかる。



市民協働によるあかりアート展、和紙の造形が柔らかい明かりを灯す。毎年 10 月開催。

平成 16 年度 都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」受賞地区概要

横浜市緑園都市住宅地区

地区の概要
当地区は横浜市南西部の泉区に位置し、相模鉄道いずみの線「緑園都市駅」を中心として開発された、面積 122ha、人口 1 万 5 千人を擁するニュータウンである。 ニュータウンの開発には「アーバンデザイン」の考え方が採用され、「人間性を追求した豊かなまちづくり」を基本テーマにしている。基幹道路の幹線・準幹線道路は、電線が地中化され、幅広く走りやすくなっており、住宅地内には安全性を考慮して、歩行者優先の道路も整備されている。戸建街区の道路と住宅の門塀・門扉間にはセミパブリックゾーンを設けてまちなみの景観を生み出し、一方、街の機能を活性化させる文化・教育・商業施設も街全体の景観と利便性を配慮し造られており、分譲以来 18 年経った今でも「快適で安全・安心な居住環境」を追求し創り出している。

金沢杜の里浅野川通り ・杜の里通り沿道地区

地区の概要
当地区は、金沢大学の位置する金沢市東部丘陵の緑豊かな里山地域であり、市を代表する河川の一つ浅野川に面し、対岸の小立野台地の緑豊かな斜面緑地に囲まれた、身近な自然環境が豊かに残された地区である。 こうした環境の中にあって、豊かな自然環境と調和するまちなみづくりを実現するため、地区計画による「壁面線後退の規制」と、地区計画では規制できない「壁面後退部分の利用」をまちづくりのルールで補うことにより、一般宅地を 3 m セットバックして歩行空間を生み出している。 その他、地区計画では、高さの最高限度（敷地面積、デザインにより緩和）、独立広告の位置の制限、勾配屋根、屋上広告の禁止などを規制し、歩行者からの近景、中景に配慮している。

門真市石原東・幸福北地区

地区の概要
当地区は、高度成長期の昭和 30 年代後半から約 10 年間にわたって、大量の文化住宅、長屋住宅等 38 棟 227 戸が、基盤が未整備のまま建設された、防災上、住環境上に課題を残した地区であった。 この地区を良好で美しいまちとして更新するため、地権者等からなる共同整備事業組合を平成 7 年に設立し、組合と市で協力して事業を実施してきた。組合と市の間で相互の役割分担を明確にするため「まちづくり事業協定」を締結し、魅力的でデザインの統一された景観をつくるため、「花と芸術のあふれるギャラリーのあるまち」をコンセプトに、「景観デザイン・ルールブック」を作成し、これに則って建築物、道路、公園等を整備して、調和のとれたまちなみを形成している。

りぼんシティオ那珂川地区

地区の概要
当地区は JR 鹿児島本線博多駅と竹下駅の中間に位置しており、大規模な工場の移転等に伴う土地利用転換にあたり、住宅市街地総合整備事業制度を活用し、都市型住宅と道路・橋梁・公園等の公共空間の整備が一体的に進められている。あわせて、地区内を流れる那珂川では河川改修が行われ、潤いとふれあいのある水辺空間が整備されている。 地区整備にあたって、工場地帯の印象を払拭し、魅力ある住宅地としてのイメージアップを図るため、各事業者が連携し、初期段階からさまざまな景観に対する取組みが行われてきている。 現在は、地区整備の過程での住民参加の取組みをさらに発展させ、整備された施設、景観を生かした、地区住民による交流、コミュニティの形成を目指している。

平成 16 年度 都市景観大賞「美しいまちなみ特別賞」受賞地区概要

岩出山町南町地区

地区の概要
当地区は、宮城県北西部に位置する人口 1.4 千人の山間の町である岩出山町の中心市街地にあり、伊達政宗公の岩出山入府の際に御譜代町として形成され、以来、町の中心商業地として現在に至っている。 平成 5 年度から着手した県施行による街路整備事業を契機に、南町商店街事業協同組合や町・県・各種団体が一体となり、「岩出山町南町通りまちづくり協定」にもとづいて、統一されたまちなみの誘導をはかり、電線類ソフト地中化とあわせて、歴史を感じさせる街路整備を実現している。 当地区では、年一回の「竹工芸館まつり」や朝市等のイベントが開催されるとともに、組合が植栽による街路のイメージアップを図り、岩出山らしい歴史的まちなみとして景観を維持している。

ガーデンガイルズ 平尾台地区

地区の概要
北九州国定公園の平尾台西部に位置する当地区は、もともと多くの樹木が生育する庭園を整備した約 0.8 ha の低層戸建て住宅地である。 当地区に生育する既存樹をどのように生かすかを最大の課題として「森の街プロジェクト」を立ち上げ細部にまでこだわりをもったまちづくりに取り組んできた。 居住者による管理組合を結成し、プロジェクトの要であるグリーン・プランを継続・発展させることで良質な景観形成・保全、そして質の高いコミュニティを育てている。 行政と管理組合が管理協定（覚書）を結び、居住者を中心とした自由度の高いきめの細やかな管理を行っている。